令和6年8月31日

防災かわら版

VOL47

いつも飲んでるお薬の名前、ちゃんと言えますか？

現代の日本では、約3割の方が医療ケアを必要とする何らかの持病をお持ちだそうです。また、65歳以上の方の70%は常用薬を飲んでおられます。（厚労省令和元年発表）

では、今、御自宅以外の場所で被災し、避難生活を指定避難所などで過ごすことになったとしましょう。

避難所には、DMAT※や、赤十字社から医師、看護師の方が応急処置や医療支援などに入って下さいます。心強い限りですよね。

※DMAT…災害派遣医療チーム

厚労省は過去の教訓から、非常時に必要なお薬を、医師の処方が確認できれば、支援物資として受け取れる、という通知（2024）を出しました。

ただ、ここで問題は、着の身着のままでお薬手帳も持たず避難所に身を寄せ、自宅に思うように戻れなくなった方が、**ご自身が飲んでいる薬を正確に覚えていないという事でした。**

医療機関も被災し、電子カルテ検索もままならない事態。多くの被災者の病状や常用薬を特定するのには、相当な時間を要した、とは、能登半島地震での医療救援の方の証言です。（NHK群馬NEWS web 2024.1.17等

：高知県立大学看護学部准教授・中井寿雄氏資料より引用）

そこで、中井先生は、スマホに自分自身の医療情報を記録し、それを災害時、医療支援者と共有したり、コミュニティで活用することで、災害関連死による犠牲者を一人でも救うアイテムを開発されました。

無料でダウンロードでき、文字入力の手間を省いて、処方箋などの写真を記録しておくことで、いざという時、その情報をPDFで取り出せるというものです。宜しければ、ご活用ください。

これで確認お願いします！

K-DiPS Solo
ダウンロード

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

本稿資料は、令和六年七月県民大学公開講座（高知県立大学主催）第1講中井教授のご厚意により、引用させて頂きました。

発行：防火・防災委員会